

組織強化と部落解放をめざす決議（案）

昨年12月、人類にもたらされた新たなウイルスは、そのウイルスの形状が王冠（コロナ）と似ていることからコビット19、通称新型コロナウイルスと命名され、瞬く間に世界へと拡散した。3月にはヨーロッパでロックダウン（都市封鎖）がなされ、経済活動、通学、通勤も著しく制限され、人々は各自の家庭に閉じこもる事態となった。日本では、首相による臨時休校要請がそれに匹敵するものとみなされ、人々の危機感とあいまって、社会生活上の「自粛」が敢行された。

部落解放運動における、各種大会、集会等も、3月3日に予定されていた第77回中央大会を始め中止や延期が相次いだ。私たち京都市協議会も、毎年5月に開催している定期総会を延期し、また、「人権・環境・平和」を掲げて昨年30回の節目となり積み上げてきたリベレーションフェスタも、実行委員会を開催して中止を決定した。人権と環境と平和という3つのテーマが、密接に関連しあっていることを、むしろ痛感する事態となった。

ウイルスの猛威は未だ収束したとは言えない現状があり、こうした国境をまたいで展開する地球規模の脅威に対して、各国の協調が求められている。しかし米中がそれぞれの国内事情とあいまって、対立をさらに深め多くの国の不安をかき立てている。

こうした大きな課題に直面した現在だからこそ、私たちは、足元の支部・地域において、休業や失業を強いられている仲間や、孤独に過す高齢者、不安を抱える若者や、ひとり親世帯などに目配りをしつつ、困りごとの解決のため「世話役」をかってでることが求められている。

部落差別がこの社会からなくなっていない以上、差別のために生じる悩み事、生きづらさが解消することはない。それに応える組織としての、われわれ部落解放同盟の存在意義を再確認しようではないか。

水平社創立100年に向けてわれわれが歩んできた道のりを振り返ると同時に、未来の100年に思いを馳せる又とない機会と捉え熟考しよう。そして、差別の痛みとともに、人権の尊さを、若い人たちへ、差別を知らない人たちへ届けよう。

2020年9月29日

2020年部落解放同盟京都市協議会定期総会